

緊急シンポジウム「スマトラ沖地震津波と私たち」

開催

1月28日に、本学の国際交流センターで、緊急シンポジウム「スマトラ沖地震津波と私たち」が行われました。シンポジウムでは、本学の教員が現地で撮影した被害実態の写真を交え、支援の必要性とあり方を話し合いました。

地震当時、タイに滞在していた高橋助教授らが中心となり、「スマトラ沖大地震・津波アクションネットワーク」を発足し、学生とともに募金活動や支援の検討を続けています。

澤口助教授は、「スマトラ沖地震の垂直変動量は5メートルであり、中越地震の23センチと比べても非常に大きい」と説明しました。また、被害海域で過去180年間にマグニチュード5以上の地震が92回起きたというデータを示し、「観光地であり、大規模な防波堤を作ることは景観上困難である。日本は今までの経験や研究の蓄積を生かし、避難経路の構築などに携わるべきである」と話しました。

(2005年1月29日新潟日報より一部引用)



